



最初に、豪雨被害にあわれた能登地方にお住まいの方々の生活が、早期に再建されますようにと願うとともに、復興を支えるため、現地で活動されている方々に対しても想いを寄せたいと思います。

10月5日(土)の体育大会に、たくさんの方々がお越しくださいました。ありがとうございました。体育大会の開催にあたって、子どもたちの健康面を支えてくださった保護者の皆さまをはじめ、ご多忙のなか、足を運んでくださったご来賓の方々、たくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

9月15日(日)の午前に、河原屋地区の掃除がありました。バス通学の方は気付きにくいと思いますが、河原屋分団の人や、自転車通学生は、河原屋地区の通学路風景が変わっていたことに気付いていたでしょうか。津風呂湖入口交差点からの歩道。たまっていた落ち葉がなくなっていたことに。河原屋交差点から妹山周回道路の細道。小石や小枝、落ち葉がなくなっていたことに。

※現在は、落ち葉の季節(=Fall:秋)なので、新しい落ち葉がたくさん落ちていきますね。

これらの場所を掃除してくれた方々は、通学路として使う児童生徒が通学しやすいように、通学途中にけがをしないようにと考えながら、歩道の片すみ、みんなが気付きにくい所に目を光らせて、一枚の落ち葉も、一片の小石すらも残さないようにと掃除してくれました。まさしく「一隅を照らす」精神ですね。同じく、9月30日(月)に学校周辺の草刈りをしてくださった草刈りボランティアの方々も「一隅を照らす」精神で、私たちの体育大会のために環境整備をしてくださいました。

一隅を照らす(いちぐうをてらす)

「片すみの誰も注目しないような物事に、きちんと取り組む人こそ尊い人である。」という意味です。

誰もが注目するような表舞台で活躍することは、尊い(すごい)ことです。でも、誰も注目されないような場所、注目されにくいような場所で活躍することも、同じように尊い(すごい)ことです。何か難しいことのようにですが、学校や学級での生活を参考に考えてみましょう。例えば、体育大会。

代表として役割を持ち、リーダーとして活動する人もいれば、その人に協力して細かい仕事をしている人もいます。リーダーとして活動する人は確かに目立ちますが、そのリーダーを支える人がいないと物事は成し遂げられません。

リーダーについての話とは少し違うかもしれませんが、体育大会の各競技種目をするとき、競技する人は目立ちますよね。でも、競技する人のために準備や運営に携わっている人がいてこそ、競技する人は、その種目を最後までやりきることができるのですよね。体育大会の準備をするときも、同じようなことがあったでしょう。学級旗づくり、応援、演技・団体競技のまとめ役、等々。

このように、一人ひとりが、今、自分がいる立場や役割に一生懸命取り組むことが尊い(すごい)ことなのです。これらの尊い(すごい)ことがみんなに伝わっていき、お互いにみんなのがんばり、すごさを認め合うことで、一人ひとりが輝けるいい体育大会が成し遂げられたのです。

本当に、いい体育大会でした。しみじみとそう思います。

閉会式の挨拶で述べたとおり、一生懸命がんばることはカッコいい、ということを見せつけられました。当て字になりますが、漢字を使うと、魅せつけられました。このような魅力的なみなさんが、次、どんな輝きを魅せてくれるのだろうか、みなさんと、どんな魅力的で、輝く活動を一緒にできるのだろうか、期待で胸が躍ります。

無理して背伸びしなくても、私たちは、普段から自分の置かれた場所で「一隅を照らしている」のではないのでしょうか。誰の目にもとまらないけど、みんなのためになること。あなたは毎日しているでしょう。学校で例えるなら、ろうかに落ちているゴミを拾ってゴミ箱に捨てるとか。トイレの全部のスリッパをきれいに並べるとか。これらは、尊い(すごい)活動だということです。

家庭ではどうでしょうか。地域ではどうでしょうか。

みんなが「一隅を照らして」体育大会をやり遂げることを通して身につけた力。毎日の生活で、次の活動で生かしてくれると期待しています。せっかくつけた力だから、生かして、発揮していきましょう。いい学校づくりにつながることまちがいなしです。大丈夫。行こう。あとは楽しむだけだ。